

国語科学習指導案

2009. 9. 8 (火) 5校時
1年生14名(男子9・女子5)
授業者 田山中学校 村上 三寿

1. 単元名 [文法の広場2] 『文のくみたて』

2. 単元について

(1) 指導の目標

国語科のなかにふくまれる教科内容には、大きくわけて次のふたつがあり、これが相互にむすびついて存在している。

- ① 日本語という言語についての知識やつかい方のきまりを体系的におしえる、言語教育の側面(音声体系・文字体系・文法・語彙)
- ② 日本語をつかった言語作品のよみ(文学作品・説明文)と日本語をつかった表現(作文)や話し合いなどの、言語活動教育の側面

このふたつの側面は国語科のそれぞれの単元のなかでは、同時に進行することもあり、相対的に独立したものとしてさしだされることもある。この単元では、言語教育を相対的に独立したものとしてとりあつかい、とりたてて、日本語の文法の体系をおしえることを目標としている。文のしくみや単語のしくみについて、基礎的な知識をもつばかりでなく、意味的な関係や役わりについて深く考えることは、文学作品のよみとりにおいても大切な生きた力となる。また、品詞や文の部分など、日本語のしくみについて正確な知識をもつことは、英語の学習にかぎらず将来の外国語の習得にとって普遍的な知識として大きな支えとなる。

(2) 単元の学習内容

文をいくつかの部分に分けながら、それぞれの部分が文のなかでどういう意味と機能をもちながら存在しているかを知り、日本語の文の内部の法則、日本語についての文法的な知識を体系的に身につけていくことが、この単元の学習内容である。主語、述語、修飾語などとよばれてきている文の部分の意味と機能をひとつずつ確認しながら、日本語の文の内部構造(くみたて・しくみ)をあきらかにする。この学習活動のためには、それぞれの部分の構成要素である単語がどの品詞であるかについて、基礎的な知識を必要とする。基本となる4品詞(名詞・動詞・形容詞・副詞)の意味、かたち、性質、はたらきなどを何度もたしかめながら、文の部分についての学習活動がすすめられる。

3. 生徒について

1年生に入学してから5か月たった。文学作品のよみの授業「大人になれなかった弟たちに・・・」などでは、場面のイメージをうかべながら、活発に心をはたらかせ、思考をめぐらせて作品のなかにはいりこんで学習してきた。文学作品の学習では、作家の表現の巧みさに感心したり、日本語のつかい方にも関心をしめす姿もみられるようになってきた。日本語の学習では、1学期に音声のしくみと4品詞の学習をおえているが、まだ十分に定着しているわけではない。文の部分についての学習をすすめるなかでも、4品詞の復習をしながら、品詞という概念のもつ意味内容をふくらませ、あたらしい知識を得ている。日本語のしくみの学習においても、よく思考をめぐらせ、活発にとりこんでいる。単語や文のしくみについて、新しい発見、新しい知識を得ることが楽しいようである。ただ、年齢の関係からか、論理的に考えて、法則をさぐるという点ではまだまだである。これから少しずつ根拠を明確にしながら論理的に思考することをつみかさね、日本語のしくみを深くとらえていきたい。

4. 指導計画

- (1) 主語と述語 _____ (2時間)
- ① 文のなかでの主語と述語の役わりと意味
 - ② 述語の品詞による文のタイプ
(名詞述語文・形容詞述語文・動詞述語文)
- (2) 修飾語 _____ (2時間)
- ① 修飾語の役わり
 - ② 修飾語のふたつのタイプ
(名詞かざりの修飾語・動詞かざりの修飾語)
- (3) 補語と状況語 _____ (2時間)
- ① 補語の役わりと意味
 - ② 状況語の役わりと意味
 - ③ 補語のタイプと状況語のタイプ
(品詞の下位分類・品詞と文の部分の関係)
- (4) 独立語 _____ (1時間)

5. 本時について

- (1) 題材 「文の部分(補語・状況語)」

(2) 目標

文のそれぞれの部分がどういう意味と役わりをもっているか、述語との関係のし方と文全体に対する関係のし方のなかで理解する。

- ・ 補語が述語に対してどういう意味的な関係をもっているか
- ・ 修飾語と補語とのちがい
- ・ 状況語が文全体のなかでどういう役わりをもっているか

(3) 題材について

主語と述語が文のなかで大切な部分であることは当然のように知られているのだが、文のそれ以外の部分としては、どういうものがあってどういう役わりを果たしているかについて、正確な知識をもっているわけではない。修飾語(かざっている部分・くわしくしている部分)という用語はあるものの、その中身については、述語との関係のし方や文全体のなかでの役わりを明確にとらえているわけではない。修飾語という用語のもとで、実際には、主語と述語以外のその他の部分という程度のあつかいしかなく、名詞かざりの修飾語(いわゆる連体修飾語)にはおもに形容詞となり、動詞かざりの修飾語(いわゆる連用修飾語)にはおもに副詞となる。他動詞述語文では動作の客体(対象)を義務的に必要としているのだが、この部分は補語(英語文法でいうところの目的語・補足語)であって、ただのかざりの部分ではない。修飾語が動作のようす(ありさま・程度)をあらわし、おもに副詞となるのに対して、補語の方は動作の対象をあらわす名詞からできているという点で、この2つの部分は、述語との関係のし方がこととなっている。さらに、文の部分のなかには、補語や修飾語のように述語というひとつの部分に対してだけ関係をもつのではなく、文全体にさしだされている出来事を外側からとりまき、出来事の背景として文全体と関係している状況語(時間・場所・原因・理由など)という部分がある。この部分には、時間名詞・場所名詞・現象名詞などがなる。主語と述語以外に「修飾語・補語・状況語」というの3つの部分を区別し、それらの意味、役わり、品詞のちがいを明確にすることは日本語の文の内部構造をとらえるうえで重要なことである。あらゆる言語に普遍的なこれらの概念を習得することは、4品詞の学習とやらんで、外国語学習のための基礎知識となるばかりでなく、文学作品の内容のよみにとってもきわめて大切な力となる。「ことばを大切にしながら文章をよみとる」ということの具体的な中身は、文のなかでのそれぞれの単語の役わりの認識を土台にして、文にえがきだされている出来事をとらえることである。

(4) 指導の構想

本時の目標にせまるために、つぎのような手順をふむ。

- ① 修飾語と補語とのちがいを述語動詞との関係のなかで考える。
(品詞のちがい・意味的な関係のあり方のちがい)
- ② 動作をなりたさせるために必要な人やものをあらわす部分としての補語の役わりをとらえ、いくつかの補語のタイプをさしだす。
—— 動作の直接の対象・道具・手段・材料 ——
- ③ 状況語をさしだし、文全体のなかでの役わりを考える。
(述語の動作だけにかかわっているのではなく、文全体のできごとの背景としてできごとのなりたつ状況を外側からとりまいていることを知る)
—— 時間・場所・原因(理由) ——

(5) 展開

	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1. 2つのタイプの修飾語の役わりと品詞をたしかめる (前の時間の復習)	<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <p>(<u>形容詞</u>) まっかな スポーツカーが (<u>副詞</u>).. びゅんびゅん 走る。 (名詞かざり) (動詞かざり)</p> <p>(<u>形容詞</u>) 高い エントツから (<u>形容詞</u>) まっ黒な (<u>副詞</u>).. けむりが もくもく あがる。 (名詞かざり) (名詞かざり) (動詞かざり)</p> </div>	
5 分	2. 文を部分にわけるといふことの意味をたしかめる (文のなかでの役わり) (他の単語に対する関係) (品詞)	<p>—— おもに形容詞がなる (どんな)</p> <p>—— おもに副詞がなる (どんなふうに)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名詞かざりの修飾語 ・動詞かざりの修飾語 <p>(どのくらい)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの部分がどの部分を修飾しているか (矢じるしで) ・かざっている単語の品詞と かざられている単語の品詞
展 開	3. 修飾語の入った文カードと補語の入った文カードをさしだし、ちがいを考える (両方まじった文カードを分けてみる)	<ul style="list-style-type: none"> ・まず自分の考えをノートにメモ ・グループごとに話し合う (発表しながら) ・ちがいが何かを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・述語動詞の意味的なタイプのちがい (自動詞・他動詞) ・品詞のちがい ・述語動詞に対する関係のし方のちがい
	4. 述語動詞に対する関係のし方・意味・品詞のちがいから、補語と修飾語が文のなかで別々の部分であることをたしかめる <u>※(用語の規定をおこなう)</u> (例文のなかの修飾語と補語を矢じるしでたしかめる)	<ul style="list-style-type: none"> ・補語 —— 動作が成り立つのに必要な人やものをあらわす (名詞でできている部分) ・修飾語 —— 「なにを」 —— —— 動作のようすをくわしくしている (ありさま・程度) (副詞でできている部分) —— 「どんなふうに」 —— —— 「どのくらい」 —— 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは動作の直接対象となる補語の用例で修飾語とのちがいはっきりさせる (品詞のちがいを意識)

3 5 分	<p>父が 押した。</p> <p style="text-align: center;"> <u>(形容詞)</u> <u>おもい</u> (名詞かざり 修飾語) </p> <p style="text-align: center;"> <u>(名詞)</u> <u>荷車を</u> (補語) </p> <p style="text-align: center;"> <u>(副詞)</u> <u>ゆっくり</u> (動詞かざり 修飾語) </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補語を見つける問題 ・補語をおぎなう問題 ・動作の直接の対象以外にも動作の成立にとって必要な人やものがあるということを知る。 	
5. 6. ※ (補語の規定の再確認)	<p>5. プリントの例文で補語と修飾語を区別する</p> <p>6. 動作の直接の対象以外の補語の例をさしだす (2枚の文カード)</p> <p>※ (補語の規定の再確認)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント問題でたしかめる ・文カードのなかから補語を見つけだし、述語動作に対してどういう関係か考える <ul style="list-style-type: none"> ① 道具・手段 ② 材料 <p style="text-align: center;">※ ここまでの補語の学習で学んだことをノートにまとめる (状況語に入るまえに頭の整理)</p> <p>(文カード) (例)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"> <u>(時間名詞)</u> <u>夏休みに</u> (状況語) </p> <p style="text-align: center;"> <u>(場所名詞)</u> <u>キャンプ場で</u> (状況語) </p> <p>ぼくたちは おいしい 焼き肉を むしゃむしゃ食べた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・状況語 —— 文全体のできごとの背景として外側からとりまく (述語だけをかざっているのではない) <ul style="list-style-type: none"> ① 時間 (時間名詞) ② 場所 (場所名詞) ③ 原因・理由 (現象名詞) 	
7. 8. ※ (用語の規定をおこなう)	<p>7. 時間をあらわす状況語と場所をあらわす状況語の文カードをさしだして、文のなかでの役わりを考える (補語や修飾語とのちがいを考える) (品詞をたしかめる)</p> <p>8. 原因・理由をあらわす状況語の文カードもさしだして、同じように文のなかでの役わりを考える</p> <p>※ (用語の規定をおこなう)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・品詞の中身のちがい ・述語との関係のし方 ・文全体のなかでの役わり <p>こういったことに注目させながら、補語や修飾語とのちがいを考えさせる</p>	
ま と め	9. プリントの問題でたしかめる	<ul style="list-style-type: none"> ・品詞に注目して、述語との関係と文全体のなかでの役わりを確認しながら、文のなかから状況語を見つけだす (時間・場所・原因理由) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文の部分にはそれぞれ大切な役わりがあり、述語との関係のし方や文全体に対する関係のし方にちがいがある
1 0 分	10. まとめ	1時間の授業で学習したことのまとめをノートにかく。	<ul style="list-style-type: none"> (ふだん意識していないが、しっかりしたしくみがある) ・時間があれば何人か発表する

6. 教材教具の工夫

- (1) 文カードの内容を比較し、ちがいをみつけ、自分のことばで説明するという発見的な学習のかたちをくむ。
- (2) 文カードの内容・確認プリントの内容を典型的なものにするために用例を吟味する。

7. 評価

- (1) 文カードにおける品詞の語彙的な意味のちがいにもとづいて、述語との関係のし方にちがいがあることを発見することができたか。
- (2) 自分の気づいたことについて、自分の頭で考え、説明し、一般化することができたか（他の人の考えに耳をかたむけ、深く学びあうことができたか）。
- (3) 品詞に注目しながら、文の部分と部分との関係のしかたや文全体のなかでの役わりを確認することができたか。

(授業でもちいる文カード)(例)

① 2つのタイプの修飾語の比較用に(前時の復習)

(名詞かざりの修飾語)

- ・ 高い えんとつから けむりが
でている。
- ・ りっぱな 車が 道ばたに
とまっている。
- ・ 大きい 鳥が 枝に とまって
いる。

(動詞かざりの修飾語)

- ・ トラクターが ゆっくり 走る。
- ・ 牛が 口を もぐもぐ
動かしている。
- ・ ぼくたちは ゆかを
せっせと みがく。

② 修飾語と補語の比較用に

(修飾語)

- ・ 父が のんびり あるいている。
- ・ 赤ちゃんが すやすや 眠る。
- ・ カエルが すいすい およぐ。
- ・ スポーツカーが びゅんびゅん
走る。
- ・ ごんが ばたりと たおれた。

(補語)

- ・ 母が テーブルを ふく。
- ・ 兄が 車を みが いている。
- ・ ねずみが おもちを かじった。
- ・ 犬が ねこを おい かける。
- ・ ひろしが かずおを なげとぼし
た。

(修飾語と補語のまじったもの)

- ・ お兄ちゃんが たいこを たたく。
- ・ 弟が ボールを けつとばす。
- ・ カエルが びよんと とびあがった。
- ・ 赤ちゃんが よちよち あるく。
- ・ おじいさんが 木を 切る。
- ・ おばあさんが キャベツを きざむ。
- ・ 妹が ごろんと ねころ があった。

③ 動作の直接の対象以外に、動作を成りたさせるために必要なもの
道具の補語(「～で」) 材料の補語(「～で」)

- ・ おじいさんが まさかりで まきを
割った。
- ・ 父は のこぎりで 木を 切った。
- ・ 弟は バットで ボールを 打った。
- ・ 兄は かなづちで くぎを 打つ。
- ・ ぼくは あみで とんぼを とる。

- ・ 私は 小麦粉で クッキーを
つくった。
- ・ 大工さんが 太い 柱で 家を
たてた。
- ・ 姉は 毛糸で マフラーを あん
だ。
- ・ 弟は 折り紙で 紙ひこうきを
つくった。

④ 補語の空らん文カード

道具の補語(「～で」)

- ・ 母が [で] テーブルを ふく
- ・ 父が [で] 畑を たがやす。
- ・ 妹が [で] クッキーを つく
る。
- ・ 兄は [で] くぎを 打つ。
- ・ ぼくは [で] さかなを とる。

材料の補語(「～で」)

- ・ 母が [で] パンを つく
った。
- ・ 姉が [で] セーターを
編んだ。
- ・ わたしは [と] [で]
クッキーを つくった。
- ・ 父は [で] 犬小屋を
つくった。
- ・ 日本人は [で] お酒を
つくる。([から])

⑤ 状況語（文全体のできごとを背景として外側からとりまいている）

A（時間をあらわす）

- ・ 夕方 子どもたちが ボールを けている。
- ・ 昼休みに 1年生が バスケットボールを たのしんでいる。
- ・ 日曜日 おとしよりが しずかに 本を よんでいる。
- ・ おととい ぼくたちは 花火を した。

B（場所をあらわす）

- ・ グラウンドで 子どもたちが ボールを けている。
- ・ 体育館で 1年生が バスケットボールを たのしんでいる。
- ・ 公園で おとしよりが しずかに 本を よんでいる。
- ・ 川原で ぼくたちは 花火を した。

C（原因・理由をあらわす）

- ・ 大地震で 家が くずれた。
- ・ 洪水で ていぼうが 決壊した。
- ・ 大雪で 列車が ストップした。
- ・ 事故で 道路が 渋滞している。
- ・ 妹は かぜで 学校を 休んだ。
- ・ 弟が 腹痛で 泣いている。

⑥ 状況語の空らんの文カード

（場所）

- ・ 妹は [] で クッキーを つくった。
- ・ 弟は [] で 畑を たがやす。
- ・ 兄が [] で まんがを よんでいる。
- ・ 祖母が [] で いねむりを している。
- ・ 父が [] で 牧草を 刈っている。

（原因・理由）

- ・ [] で 家が 流されそうになった。
- ・ [] で 木が たくさん 燃えた。
- ・ [] で 家が こわれた。
- ・ [] で 友だちが ケガをした。
- ・ [] で 道路が こんでいる。

⑦ 状況語の比較の文カード（場所と原因・理由）

- 〔 列車が [] で とまっている。〕
- 〔 列車が [] で とまっている。〕

- 〔 妹が [] で ねている。〕
- 〔 妹が [] で ねている。〕

- 〔 列車が 田山駅で とまっている。〕
- 〔 列車が 大雪で とまっている。〕

- 〔 妹が 部屋で ねている。〕
- 〔 妹が かぜで ねている。〕